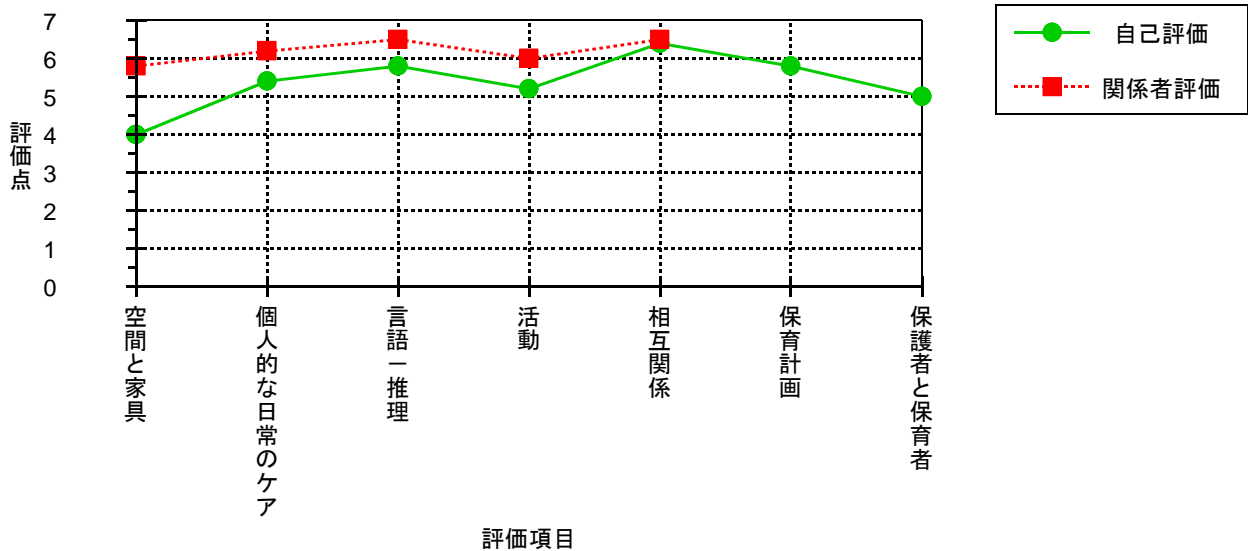


平成29年度自己評価・関係者評価（ECERSを用いた保育環境評価を通じて）

えびーく幼稚園

1. 評価点数

評価平均	自己評価	関係者評価
空間と家具	4	5.8
個人的な日常のケア	5.4	6.2
言語－推理	5.8	6.5
活動	5.2	6
相互関係	6.4	6.5
保育計画	5.8	－
保護者と保育者	5	－



2. 省察
概 観

えびーく幼稚園教職員及び関係者による保育環境評価を実施したところ、上記のような結果を得た。全体的に同様の折れ線を描きながらも、自己評価を関係者評価が上回っている。以下各項目別に検討する。

I. 空間と家具

平成28年度からはじめたコーナーによる遊びと育ちの関係を検討した。もう少し常設のコーナーを増やしつつ、年齢幅が広がった事による安全面とこどもの活動への欲求を満たすせるようにしたい。

II. 個人的な日常のケア

各担任がクラスのこどもたちの気持ちを受け入れ、状態を見定めるように心がけている。こども同士でも互いに主張し受け容れる場面が多く見られており、それぞれのこどもへのアプローチを密にすることでかえって全体の安定が得られていることがわかる。

Ⅲ. 言語－推理

慣れによるものか、こども達の意見を受け容れることと、仕組みとして受け容れていく体制にあることとの勘違いが見られることが少しあったので、言葉、概念、発話、聞き取り、会話、共感、疎通について改めて大切であることを確認した。

Ⅳ. 活動

自然物の充実により屋外環境を保育に取り入れる機会が多くなり、施設構造によるデメリットが消えつつある。さらに職員の充実を図ればより一層おもしろくなると思われる。

Ⅴ. 相互関係

専門機関との連携において『子供観』の違いがあり意見を交わすこともあった。より一層機会を設け相互に充実した価値の共有を図りたい。

- ・以下自己評価のみ

Ⅵ. 保育計画

例年同様、振り返りや複数人数での考察の時間を取るために超過勤務時間が多い。

Ⅶ. 保護者と保育者

職員全員が全園児の状態を知っているため、保護者との関係は良好である。当園の方針に理解していただいております、ますます保育環境の充実を進めたい。

3. 課題

職員を増やしたい。